**＜4回目のお話＞　救いの必要と意味**

◆**代表者による祈り**

◆**分かち合い**

これまで自分自身は救われなければならない存在だと考えてみたことがありますか？救われなくても天国に行けると考えていましたか？その理由は何でしょうか？一緒に考えを分かち合ってみて下さい。

◆**御言葉を開いてみましょう**

ヨハネ3:16-17

◆**御言葉を知る**

人がこの世に生まれ、生きていく時間は、救いを受ける機会が与えられている時間だとも言えます。救いは人にとって絶対に必要なものです。ではなぜ、人は救われなくてはならない立場に置かれたのでしょうか。そして、救いが意味することとは何でしょうか。

**1．救いを必要とする人間**

神様は人を神様の形に似せて造られ、人との交わりを求められました。しかし、最初の人アダムが罪を犯したことで、神様と人との関係は断絶してしまいました。そして、アダムの罪は子孫代々受け継がれ、すべての人類は罪の下に置かれました。「そういうわけで、ちょうどひとりの人によって罪が世界に入り、罪によって死が入り、こうして死が全人類に広がったのと同様に、―それというのも全人類が罪を犯したからです。」（ローマ5:12）

罪によって神様との関係が断絶された人間は、虚しい人生を生き、死を迎え、地獄に行くしかありません。そして、何よりも絶望的なのは、人は決して自らの力で罪の問題を解決することはできず、このような悲惨な状況から逃れられないということです。なぜなら、人の全人格は罪によって壊されたからです（ローマ3:9－18）。結局、罪を克服できない人間は、人以外の誰かによる救いを必要とするようになりました。

**2．旧約の語る救い**

人を救う唯一の方は神様です。神様は人の堕落にもかかわらず、人を愛され、救いの道を与えました。旧約には、人の救いを暗示する箇所がいくつもあり、これらの箇所はすべてイエス・キリストをあらかじめ表しています。

第一に、旧約は「女の子孫」に関する御言葉で救いを暗示します（創世記3:15）。神様は、エバを誘惑して堕落させた蛇、すなわちサタンに対して、女の子孫がその頭を踏み砕くとおっしゃられました。ここで女の子孫とは、罪を犯したアダムの種ではなく、聖霊によって罪無く生まれたイエス様を意味します。罪のないイエス様は十字架の上で人類のすべての罪を背負われることで、罪を根拠に人をそしっていたサタンを無力化させました。いまやイエス様を信じる人は罪から自由を得て、サタンに立ち向かうことができます（ヤコブ4:7）。

第二に、旧約は「過越しの小羊」に関する御言葉で救いを暗示します（出エジプト12:21－24）。神様はエジプトにおいて奴隷の身分をもって苦しみの中を生きていたイスラエルの民を救われるために、エジプトに10の災いを下して裁かれました。この時、10番目の災いにおいて、神様はイスラエルの民に対し、小羊をほふって、その血を自分らの住む家の鴨居と門柱につけ、長子への死の裁きを避けるようにおっしゃられました。これは全人類のために十字架に架けられ、血を流して亡くなられたイエス様の犠牲をあらかじめ表す御言葉です（ペテロⅠ1:18－19）。イエス様が私たちを救われるために血を流して亡くなられたことを信じる人は、神様の裁きから救われることができます。

第三に、旧約は「青銅で作った蛇」に関する御言葉で救いを暗示します（民数記21:8－9）。出エジプトし、荒野を進んでいたイスラエルの民はつらい旅路に疲れて不平を述べ、それに対して神様は燃える蛇を送って民に噛みつかせて戒められました。それを見たモーセは神様の御前に出て祈り、神様はモーセが燃える蛇を作り、それを旗ざおの上につけ、民がそれを見れば、彼らが助かるだろうとおっしゃられました。そこでモーセは青銅で蛇を作り、旗ざおの上につけ、それを見た民は生きることができました。この旗ざおの上につけられた青銅で作られた燃える蛇は、十字架に架けられて亡くなられたイエス様をあらかじめ表します。十字架に架けられて救いの道を開かれたイエス様を信じて仰ぎ見る者は誰でも救われて命を得ます（ヨハネ3:14－15）。

**3．新約の語る救い**

旧約であらかじめ表された、人に対する神様の救いは、イエス・キリストがこの世に来られて十字架に架けられて亡くなり、よみがえられたことで成就しました。イエス・キリストが完成された救いの意味について新約は次のように言っています。

第一に、救いとは罪の赦しです。人は罪によって神様から断絶されました。よって、人が神様との関係を再び回復するには必ず罪を赦されなければなりません。イエス様はこの世に来られ、人のすべての罪を背負い、亡くなられました。これからイエス様を救い主として信じる者は誰でも、イエス様の功（いさお）によって罪を赦され、神様との関係を回復することができます（ローマ3:25－26、コロサイ1:20）。

第二に、救いとは義と認められることです。すべての人は罪によって神様の御前に不義なる存在となり、神様の裁きを避けることはできません。しかし、イエス様は聖霊によって罪なく生まれ、何の罪も犯さずにこの世を生き、十字架に架けられ、亡くなるほどの従順をもって神様の御前において完全に正しい人生を送りました。だからイエス様を信じる人は誰でも、イエス様が成し遂げられた義を受け、何の条件もなく、神様の御前において正しい存在だと認められることができます（ローマ1:17、3:21－22、ピリピ3:9）。

第三に、救いとは贖いです。贖いというのは、元々奴隷や戦争捕虜などをお金を支払って買い戻すという意味です。イエス様は自分の命を代価として支払うことで私たちを贖われました（コリントⅠ7:23）。その贖いの結果として、私たちは罪の権勢と死から救われました。キリストによって贖われた私たちは、罪からの自由を得て聖なる人生を生きることができ、死を恐れることもありません。

第四に、救いとはイエス様の勝利にあずかることです。イエス様は人としてこの世に来られ、十字架に架けられて亡くなり、よみがえられてからは栄光の天の御座に座しておられます。イエス様の勝利は、主を信じる私たち全てのものです。なぜなら、人として来られたイエス様は、すべての人を代表されるからです。私たちはイエス様とともに死から救われ、新しい命を得、天の御座に座る栄光を受けるようになります（エペソ2:4－7）。

◆**祈り及びとりなしの祈り**

1．聖書を読んで、黙想し、私たちを救われた神様の恵みをもっと深く知ることができるよう祈りましょう。

2．救われた神様の子どもらしい人生を生きられるよう祈りましょう。

3．失われた魂を救うために献身することを祈りましょう。

4．隣の人と祈りの課題を分かち合い、ともに祈りましょう。

以上の内容はヨイド純福音教会区域礼拝テキストから抜粋、追加、翻訳、再構成したものです。